
あたし あいつ

葉瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あたし あいつ

【Nコード】

N 6 1 5 4 E

【作者名】

葉瑠

【あらすじ】

なんか教室でぶつ倒れたらしい“あたし”。一緒にぶつ倒れてた“あいつ”。そんな佐藤♀と高橋♂は…入れ替わったっ！！

ガラガラ~~~~

「どーよ、調子は？」

「へっ？」

・・・・・・・・・・・・・・・・

ああ、保健の佐々木センサーか

「はあ、記憶障害でも出てんの？あんた達。
教室でぶっ倒れてたのよ？」

ふーーーーん

・・・・・・・・・・・・・・・・

でも誰と？

「センサー！鏡貸してえ」

「ん？高橋。あんたセンサーなんて呼ばないよね？
まあいいかあ、ほいよお」

たっ、っ、っ、高橋？？

なあ~~~~に言つてんだかあ

あたしは佐藤だしねえ」

ヒヨイツ

「あゝ ああああああ~~~~~~~~~~~~」
また、悲鳴が響く――

STORY 1 ♀ 異変（後書き）

葉―初投稿なんで下手なんです・・・

これからも頑張るんでよろしく願いますっ！

STORY 2

♂ 異変

・・・・・・・・・・・・・・・・ん・ん

俺はなんかつーんとする匂いで目が覚めた。

「イテッ」

体中いてーし

手や足にはシップが張ってあつて多分そいつのせいだーーはっ??

俺ってこんなに華奢だったっけ?

—— 異変

この状況をチェックするー

とりあえず、ここは保健室ってこともわかる

それで先生も今いない

なんかめちゃくちや違和感があるし

だって俺こんなに色白くねーし

野球部だぜ??

年中真つ黒なのにさあ
しかも手も小さいし・・・・・・・・・・。

「あっ？な、何でスカート？！」

なんで俺はスカートはいてんだよ！！

ってかこれはどっからどう見ても女子の制服だろーが
どこのどいつがこんなふざけたことしやがったんだよ

俺の記憶は昼休憩で止まってる、

ってことは今・・・4：15ってことは

3時間弱も寝てたのか

その間になんかあったけ・・・

「くつつ」

思い出せネエーーーーー

ま、いつか

多分その時間の間にやったに違いネエー

横でも誰か寝てるっぽいし、犯人はそいつか？

「どこのどいつだよ・・・」

なんか声もちよい高い気もするけど？

そんな違和感はずぐ消えた

どこのどいつがこんなふざけたマネしやがったのか、

そいつの顔を拝んでやろーと

燃えまくる俺。

俺はカーテンに手をかけ

めくった・・・・・・・・が

スグしめた

「お、お、お、おれ？」

いやな予感がする・・・
俺は即棚の上の鏡まで走った、

「あゝ ああああああ~~~~~」

夢なんだ、ぜってー夢だ
こんなこと起こるはずが無いー

STORY 2 ♂ 異変（後書き）

葉―なんか順番が逆みたいになっちゃいました

これは♀が目覚める前におこったことですねえ

まあ頑張って読んでやってくださいm（――）m

STORY 3

♀ 認識

どーなってるのっ！！！！！！

なんで？

なんで？

なんでええええええええ？？

「ええっ——————？？」

——認識

「もー高橋、あんたそんなに絶叫したらダメでしょーが！

ここはーホ・ケ・ン・シ・ツ

静かにしなさいっ！」

センサーー！！

そんなこと言ってる場合？！

だって、だって、だってっ！

あたし 佐藤優奈 が 高橋圭 になってる！！！！！！！！

でも
・
・
・

こんなこと信じてもらえないだろうし

絶対言えな…

「ゴメンけど、これ。」

借りていいですか？」

つてえええええ！！！！

「これ」のところで多分 高橋圭 があたしを指さしてるし

なんか高橋狂ってるみたいだから気を付けてね♪佐藤」

い
ち
い
ち
い
ち
い
ち
っ
！

それで貸すのもおかしくない？！

シーンセー

「そーですか？」

んじゃおかまいなく。

その多分 高橋圭 はあたしの学ランの襟をつかんで
 どんどん歩いていく……

「ヘルプ……!!!」

なんて叫んでもセンサー無視だし、

つてかそんなに大またで歩くなああああ
恥ずかしいのっ?!こいつ

STORY 3 女性 認識（後書き）

葉ー やつと3話まで書けた・・・

どーでしたか？

どーぞ、この話を見た人はコメントしてやってください
今後の力になりまっすっ！

STORY 4

♂ 逃走

はああああ・・・

何でこんな事になんだよっ！

さっき鏡見たとき本当に失神しそうだった
でも、こいつドンくさいからしっかりしとかないと

こいつ・・・

さっき俺のこと

「なんでそんなに冷静なのよー－－－－－－－－－－－－！！！！！！」

って叫んでたな

俺だってそんなに冷静じゃないことぐらい分かれよなー
何年隣人やってんだよ、
バーーーーー力

あっ、

そーいやどこに逃げよう・・・

―― 逃走

「おい、とにかく屋上行くぞ」

まあ、有無言わせないけどさ

「屋上?! 立ち入り禁止でしょ?」

「俺は教頭に屋上の管理まかされてんの」

だーかーらー

ほんとに“俺”が女言葉とかマジ違和感あるんだってやめてほしい

まあ、半ば逆切れで言った

「お前、俺の格好でその言葉遣いやめてくんない?」
つてのはきつかったか

反省。

でも、なんで女子ってこんな格好出来るんだよ
ホント足スースーだし

階段上がるのとか・・・

まあ何も考えないほうがいいかも
やっぱ男子としては気になるんだよな・・・。

はぁ・・・

「キャンキャン五月蠅い!!」

「何よっ！冷血ヤローめっ！」

「はー！？」

「なんか文句ある？」

はあ、惨めだ

なんでこんなくだらないことで争ってるんだ？

そんなことより、

この俺の形した 佐藤優奈 をどーにかしないとな

っとか考えながら言い争ってるうちに屋上に着いた

鍵を 佐藤優奈 から取り出した時、
フツと目が合った・・・

STORY 4 ♂ 逃走（後書き）

葉ーどーでしょうか？

ちよつとずつしか話が進まない・・・

今後も頑張りますッ

STORY 5

♀ 面談

「ひゃ・・・」

いきなりドアが開けられた

さつき、目が合ったんだよね・・・

多少、ドキツとしたのは自分の顔だからかな？

「お前、 佐藤優奈 だよな」

——面談

げっ・・・

やっぱり気づかれてたか

「んじゃ、あんたは 高橋圭 よね？」
・・・。

「ああ。」

「うう、、ん~~~~~」

やばい、

なんか涙が出てきた・・・。

やっぱ強がってたのかもしれない、
頭がこんがらがってたからー

パフッ

「泣くな、

こっちだつてそれなりにパニくってんだよ。

安心しろ」

抱きしめられてた

んで、頭を撫でられてた

・・・やっぱ暖かいな

あたしが泣き止んでから圭が

「これからどうするよ」

そーいや全然考えてなかった

「この姿じゃ家帰れないよね。」

「まあ家、隣だしあんま関係ねえーけど」

「！

だったらさ、明後日の夏休みからね、みんな父さんの所行くのっ！

あたしはクラブもあるし、残ることになってるからー

あたしんち来れば？」

・・・。

「お前・・・」

「ん？」

「んや、なんでもない」

変なヤツ〜

「それで行くか。」

「分かったッ！」

やっぱ、人の目を気にして名前で呼ばなくなったけど
名前で呼びたいな

「ねえ、名前で呼んでいい？」

「でも、2人のときだけな」

「やった〜〜圭ちゃん」

「でも、自分が今その 圭ちゃん であること、忘れんなよ」
.....。

忘れてたーーーーー

「そうゆうところが優奈らしい」

笑われたけど、

ちょっと心があつたかくなつた――

STORY 5 女性 面談（後書き）

葉― 遅くなりまして―

どーでしょう？

悪いところも指摘していただきたいです

STORY 6

♂ 帰宅

『優奈』

前にこう呼んだのはいつだったっけ？

「とりあえず、ラスト2日だ

気を抜くなよっ！絶対ばれるな」

「はーーーーい」

―― 帰宅

「俺ら、今日はその格好でクラブも出来ないし・・・
もう帰るか？」

「そーだね

圭チャンは野球うまいもんねー

あたしがやったら絶対ばれるしさあ」

なんか、やっぱり視線が変わるな
こいつ158センチだしさ

俺は175センチだったからか

それにしても横を歩くこいつはでかい・・・

「優奈にはこんな風に映ってたのか」

「ん？なんか言った？」

「／／／なんでもないっ！」

くっそ！

なんで俺が赤くなるんだよ

俺は乙女でもあるまいしっ！

「はぁーあのさ、圭ちゃん。

あたしはみんなの前で圭ちゃんのこと 優奈 って呼ぶから

圭ちゃんは 高橋 か 圭ちゃん ねっ」

「えっ・・・」

「あと、1人称はあたしっ！

分かった？」

圭ちゃん はぜってーヤダ！！！！

「・・・分かった」

あたし もいやだけど、しょうがないよな

たった2日乗り越えれば！！

「はぁ、んじゃ健闘を祈るよ。優奈」

「圭ちゃんもねっ」

ガチャ

「ただいまー」

「おかえりー」

ああ、優奈のお母さんの鈴奈サン。

・・・。

「こんつ」

げっ・・・。

思わず挨拶してお辞儀しそうになるのをやめた。
日ごろの癖だな・・・
これは

「優奈あゝ」

さっさと着替えてきなさいよー」

「え・・・」

うゝゝん。分かったあ」

うっし！

俺にしてはなかなかの演技かな
鈴奈サンにもばれなかったし！

・・・・・・。。

でも着替えてさあ

一応中身は健全なる男子だぜ？

いいのかあああああ？？？？？？？

STORY 6 ♂ 帰宅（後書き）

葉― お久しぶりです

6 話投稿終了・・・

うっしっ！

まず第一関門突破！

STORY 7 女 部屋

うーむ

圭ちゃん にはばれないっ！

って言ったけどさあ・・・

めっちゃくちゃ不安なのはあたしだけ？

―― 部屋

「ただいま」

「おかえりなさい、

今日どうしたの？野球は？」

うへっ

気づかれてる～～～

さすが圭ちゃんのお母さんだねー

えっとー

弥生サンだったっけ？

「えっと、、、

先生に風邪気味だつて言ったら帰らされた」

「あら、朝はそうでもなかったのね
早く部屋で休んでなさい」

「はーい」

やばっ！

返事伸ばしちやったし

こんなこと圭チャンにばれたら・・・

殺・ら・れ・る

絶対あと2日逃げ切つてやる！

タッタッタッタ

ふー

最近部活ばっかで遊びに来てないからなあー
どーなってるだろ

ガチャッ

「お邪魔しマース」

うっわー

変わってないよ、この部屋

あたしの部屋よりきれいだし・・・

うーー

むかつく！！

なんかないの??

男子といえは、

『ベッドの下にエロ本』でしょ

「よっしゃ、気合入ってきたー!!!!」

絶対圭チャンの悪事捕まえてやるんだからあ

でもねえー

ホント野球命だよ

机の上は勉強道具とトロフィー

本棚も真面目クンらしく小説・参考書でぎっしりだし

漫画なんて3、4冊・・・

うー

こんな部屋でどう過ごせと？

さて、ベッドの下搜索してみまーす!!

ヒョイツ

うー

何にも無いし

「あつ」

なんかのクッキーの空き箱発見

中身はー

写真だった

全部あたしたちの写真だし・・・

これは3歳の時のキャンプ

こっちは圭チャンが優勝した時の写真だー

でも、写真なんて隠す必要ある？
なんでこんなところに隠してるんだろうー？

STORY 8

♂ 着替え

俺は言われたとーり・・・
部屋の前までやってきた・・・
でもなあー
着替えろってさあ

——着替え

「はあ・・・」

ガチャッ

うん、女の子の部屋だ
この前来た時よりは雰囲気が変わってる——
俺の部屋よりかは散らかってるけどw
まあまあ片付けてあるし、
大丈夫だな

「ふうー」

さて、まずは制服を脱がないと・・・
でも女子の制服ってコツがいるって優奈が言ってたしなあ
まあいつか

不器用ながらもセーラーとスカートを脱いだ
鏡に立ってるのは

下着姿で

どこか幼さを残しながらも大人になりつつある少女1人だけ。

「へー。」

やっべ！

なに俺は赤くなってるんだよ

ただの幼馴染のすがたじゃないかつ！！！！

でも・・・

小学のころは全然俺らと変わらなかったのに
こんなにも変わるもんなんだなあー

・・・。。。。。

だれも見えてないし

ちよつとだけ、ちよつとだけー

むにゅ

「ふあ、ああ」

皮肉にも気持ちいいと感じちまった
もう1揉み・・・

「んあああん」

やばい、止まらなくなりそう

って俺はなんて声だしてんだよっ！
と、とにかく着替えないと

あいつって普段どんな格好してるっけ？
まあ適当でイッかな？

Tシャツと黒のサロペット・・・
俺からしちやあまあまあだな

一応優奈に電話してみるかな
あいつは一体どこしてるんだろう？

チャンチャリラ~~~~♪
そう思ったとき携帯がなった

「圭」

「！？優奈っ？」

はい、もしもし」

「圭~~~~ヤバイよ~~~~
どこしょ？？」

まだまだ問題はあるみたいだ――

STORY 9

♀ 報告

・・・こんなことあっていいの？

まさかさあ・・・

ねえ？

圭ちゃんに電話しなきゃ！！

—— 報告

ベッドの下から出てきた写真をありがたく拝見していたところで

ガチャッ

「圭？」

「今いいかしら？」

「えっと・・・うん」

「実はね、いま連絡があつてー

夏休み終了までハワイに行くことになったのよ
お父さんの友達が別送貸してくれるらしいから
あんたはクラブだし・・・
残念だけど、日本に残つてねw」

「はいつ???」

「そうゆうこと。」

明日から出発だからね
自分で生きていきなさい!」

そ、そ、そんなあ~~~~

あたしそんなに料理出来ないし

「無理だろ?」

「大丈夫よ」

鈴奈さんのところに頼んでるからー

いざとなれば優奈ちゃん来てくれるみたいだし?」

「け、じゃない。」

優奈来るのか?」

おお!

今のよかつた~~~~w

若干危なかったけどさあ~~~~

「そうよ」

あんた、親不在の時に優奈ちゃん襲つたりなんかしたら
勘当するからね」

そんなこと出来るわけないし!

弥生さんこんなこと圭ちゃんに言ってるんだー
驚きっ

新発見だあゝ

「まあそうゆうことだからね」
ガチャ

嵐みたいだったなあ

最近この家来てないから忘れちゃってたし

そうだよっ！

ってことはあたし達2人で生活すんの？！

あたしの家は毎年単身赴任先で生活するし・・・

やばいッ！

やばすぎる

電話しなきゃ・・・

「圭」

やばいよゝゝ」

「どーした？」

「かくかくしかじかでさあ・・・」

「はあ・・・」

まあ2ヶ月間はばれないんだろ？」

そうだよっ！

ある意味チャンスじゃんかっ！

圭ちゃんには色々尋ねたいこともあるし・・・さ

「そっか」

いい方向に考えればいいんだよね」

「おう」

「ありがと、さすがだね。」

んじゃバイバイ」

はぁ・・・

うん、もう寝よっかな

お風呂入ってー

ベッドにばたーんってダイブしてさ！

・・・あ、あゝあ！！

おーふーろー

まぁいつか

昔はよく見てたし

って問題でもないけど

弥生さんに夕飯はいらないって言うところ

・・・まだまだ大変だなあ

STORY 8 ♂風呂

・・・2ヶ月も2人きりかよお
ありえねえってっ！！！！！！

くっそー、母さんめ

そんなことより夕飯食べて

風呂入って

今日は寝よう

疲れた。

——風呂

はっ！

風呂って風呂か！？

そんなことしたら・・・

優奈の裸を見ちまうし・・・

くっそーーー

どうにでもなれっ！

ダダダダダダッ

1時間後―

はあああ・・・。

行くのか？

本当に？

そんなことしていいのか？

夕飯も鈴奈さんにばれなかったし

もういいじゃないか

でも・・・

これから2ヶ月風呂はいらなくてわけにも行かない・・・
行く？行かない？

ポクポクポクポク・・・
もういい、答えは「行く」だ

風呂場に着いて

着ていた物を脱いでいく

下着姿なら部屋でもう見たけど

裸とか・・・

ふうー

目をつぶって

ブラジャーのフックをはずす

ピアアアー

取った瞬間、胸が楽になったし

こうゆうものなのか？

ショーツも脱いで、
ついに真っ裸になった“俺”

体を洗おうにも目をつぶったままじゃ何も出来ない！

あああああ~~~~~

罪悪感が残りそう

つぶっていた目を開いてみる

・・・ブツ

ヤベエー

鼻血があ~~~~

優奈のやろーなんでこんなに胸でかいんだよ
ことかあるんじゃないか？

鼻血が止まりしだい

体を洗ったたびに

胸が当たったり、揺れたりすることに

赤面しながら、どうにか関門を突破した

はあ、

こんなことでやっていけるのか？俺

色々ありすぎて疲れたー

もう寝る

明日の学校はどうしようか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6154e/>

あたし あいつ

2010年10月23日19時41分発行